



国連WFP

現金・電子マネー・食糧引換券を使った食糧支援

■概要

国連WFPは毎年平均して80か国で9000万人に対して食糧支援を行っています。近年の傾向としては、食糧そのものではなく、現金・電子マネー・食糧引換券を配布し、受け取った人がそれを使って提携店で食糧を買う、という形での食糧支援が増えています。国連WFPは、このような支援を行う人道支援機関としては世界最大です。

■形態

形態はいくつかあり、食糧引換券はクーポン状の紙の券。デビットカードのようなカードに電子マネーを入金したり、携帯電話に電子マネーを送ったりする方法もあります。

■メリット

この支援方法が特に効果を発揮するのは、「食糧は豊富に売られているけれども、貧しい人々にはそれを買うだけの現金がない」という場合です。

腐る心配があるため通常の食糧支援では配給できない生鮮食料品も含め、バラエティーに富んだ食品を選んで買うことができるため、栄養バランスがとりやすく、人間としての尊厳も保たれます。

厳しい避難生活の中で好きな食材を用いた「我が家の味」を食べられるとホッとするという声も聞かれます。

また、地域の食品店で購入するため地元経済の活性化にもつながり、国連WFPにとっても食糧の輸送・保管コストが削減できます。他の支援機関が国連WFPのシステムを用い、現金を給付することもできます。

■年々、規模が拡大

現金・電子マネー・食糧引換券を使った食糧支援の規模は年々大きくなっており、2014年には、国連WFPの活動費全体の27%を占めました。

	実施国	対象人数	予算（経費込）
2009年	19か国	110万人	1,000万米ドル
2014年	56か国	890万人	15億米ドル





■シリア難民支援

このような現金等を使った支援活動のうち、もっとも大規模なのは、シリア難民に対する支援活動です。

ヨルダン、レバノン、エジプト、イラク、トルコに逃れたシリア難民190万人に対し、国連WFPは2014年、6億米ドル以上を給付しました。これまでこの5カ国で給付した額の合計は13億米ドルを超えます。

2016年には、瞳の虹彩を読み取ることによって買い物の清算ができる虹彩認証支払システムを、試験的にヨルダンのシリア難民キャンプで導入しました。

■フィリピン台風被災者支援

2013年に大型台風に襲われたフィリピンでは、被災地での緊急支援において、50万人に現金を給付する活動を行いました。

■支援手法のひとつ

現金や食糧引換券を使った支援は、いついかなるときにも効果的というわけではありません。
たとえば、市場で出回っている食糧が少ない時には、現金や食糧引換券より食糧そのものを配ったほうがよいこともあります。

国連WFPは支援する場所ごとに詳細な分析を行い、もっとも効果的な支援手法を選んでいきます。

